

暦文協★01の活動も14年目、ようやくコロナ禍も収まり、すべてのイベントがハイブリッド形式で開催されました。

<https://www.rekibunkyo.or.jp/>

●暦文協ミニフォーラム

4月4日には北とびあにて暦文協ミニフォーラムを開催、リモートと会場あわせて約110名の参加をいただきました。トークセッション「カレンダーデザインの変遷とその未来」は、JCAL優秀作品審査会の受賞作品をはじめ、多くのカレンダーを担当者の解説付きで堪能する、稀有な機会となりました。

まず、JCAL企画委員長 中戸彦一さんからは、名入れカレンダー制作では、広告主たる企業と使用するユーザー双方をバランスよく意識し、実用性とデザインという相反するテーマを調和させることの大切さ、デザインの変遷などについてご紹介いただきました。

続いて「富士の四季プレミアム」で特別賞を受賞した株式会社新藤慶昌堂の佐々野昌男さんからは、作品の魅力や経緯、工夫点などを、全国カレンダー展実行委員長の大沢秀紀さんからは、人のみならず環境にも優しい、精巧なデジタル印刷の登場といった近年の傾向を、TOPPAN株式会社の島田真帆さんからは多様な企業カレンダーの具体例を、それぞれご紹介いただきました。

その後の質疑応答では、実際に存在するものから突飛なものまで、会場からさまざまなアイデアが飛び出しました。作る側・使う側双方にとって、極めて有意義な交流の場となったように思います。



トークセッションの様子

●第14回総会&講演会

9月5日には東京大学弥生講堂一条ホールにて第14回総会&講演会を開催、リモートと会場あわせて約100名の参加をいただきました。

まずは染色家の吉岡更紗さんから「日本の伝統色と暦」と題し、日本の伝統的な染色の方法や、^{とま}季にあいたる=季節に合わせた色の衣装に身を包む平安貴族の暮らしぶり、色を茶やグレーに制限された江戸庶民の着こなしぶりなどについて、講演をいただきました。

続くトークセッションでは、第一株式会社代表取締役の寛順子さんも交え、時代にあった衣装、季節や行事にあった色などをテーマにトークが展開されました。

総会では、事業・会計報告や次期事業計画、理事交代などが承認されています。



吉岡更紗さんによる講演



トークセッションの様子



●小惑星(43753) Okadayoshirou

故古川麒一郎副理事長が1982年に発見した小惑星に、故岡田芳朗最高顧問の名前が付けられました。詳細は国際天文学連合IAUが2025年3月17日に発行した [WGSBN Bulletin](#) をご覧ください。

●新暦奉告参拝

12月3日カレンダーの日には、明治神宮にて新暦奉告参拝を開催、リモートと会場あわせて約100名の参加をいただきました。講演会の現地開催はコロナ禍以来5年ぶりのことです。

参拝は神楽殿前からの参進に始まり、直会殿にて修祓を受け、本殿にて参拝・玉串拝礼、その後神楽殿にて祈願の祈禱、巫女舞の奉納が執り行われました。

参拝の後は、下村育世理事から「明治改暦と神社の例祭」と題し、明治改暦における政府による一方的な日取り決定や、その後の改定手続きの困難さ、新たに加わった広告としての暦の役割などについて、解説いただきました。

続いて、中牧弘允理事長による「暦予報」では、各種周年行事や2025年暦の見どころなどが紹介されました。

暦文協では、今後もさまざまな形で活動を続けていく予定です。



参進の様子



下村育世理事による講演



中牧理事長による暦予報

★01 暦文協:一般社団法人 日本カレンダー暦文化振興協会の略称 (国天ニュース 2011年10月号参照)